

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「人にやさしくありがとうの心で がんばるがんばる最後まで 本気で取り組むひがほんの子」  
 ○自ら課題を見つけ、解決に向けて根気よく取り組んでいこうとする子を育てます。(知)  
 ○自他のよさを認め、思いやりの心をもって、共に生きようとする子を育てます。(徳)  
 ○心と体を鍛え、自分や人の命を大切にすることを育てます。(体)  
 ○地域社会のために自らができることを考え、実践しようとする子を育てます。(公)  
 ○様々な人や団体とのコミュニケーションを通じて、お互いを理解し合える子を育てます。(関)

教育課程全体で  
育成を目指す資質・能力

〈言語能力〉  
〈問題解決・課題解決〉  
〈情報活用能力〉  
〈自分づくり〉

具体化した資質・能力

○相手の思いを受け止めて、聞く力  
 ○問題を捉え、解決する方法を見出し、実行する力  
 ○伝える内容を明確にする力  
 ○伝え合うことで自分の考えを深める力  
 ○協働的に行動する力 ○自分らしさを発揮しようとする力  
 ○願いや目標をもち、生き方を追求する姿勢

中期取組目標

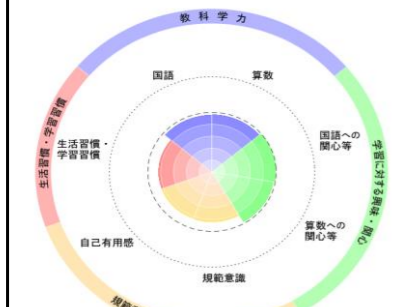
目指す子どもの姿  
 ○子どもが自ら「問い」を見出し、課題解決のために主体的に学び、互いの考えをつなぐ学習を通して、見方・考え方を広げ、学ぶ楽しさややり遂げる喜びを実感している。  
 ○多様な価値観や背景をもつ集団の中で、互いの考えや意見を認め合いながら学校生活上の問題、まちや社会の課題を解決していくことで自分自身を成長させている。  
 1年目：各教科において言語活動を充実させながら、授業の中でペアやグループ、学級全体で子どもたちが伝え合う活動を楽しんでおり、共に関わり合いながら学ぼうとしている。  
 2年目：互いに関わり合いながら主体的に伝え合うことで、自分の考えを深めていく力をつけている。  
 3年目：自信をもって伝え合うことで、グループや学級の考えを発展させたり、より豊かな表現を工夫したりする。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	①子ども主体の「対話」を取り入れた授業を展開し、子どもたちが自ら学ぶ楽しさを感じるようにする。 ②問題解決型の学習を通して、表現力や説明力、活用能力を高めるようにする。 ③スキルタイムや家庭学習を活用し繰り返し学習することにより、学習習慣を整え基礎基本の定着を図るようにする。
担当	重点研究部

学力向上に関わる本校の状況

学力に関わる子どもの実態  
 (R3年度全国学力状況調査より)  
 平均正答率は、国語、算数ともに全国平均より下回っている。学習への興味・関心はあるものの、生活習慣や学習習慣が整っていないことが原因と考えられる。また、規範意識や自己有用感が低いことも、学習に向かう態度や集中力に影響していると思われる。



今年度の目標

基礎基本の定着と表現力の向上

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ・ペアやグループなどの小集団で子ども同士が対話をする場を意図的に設け、表現することの楽しさと聞くことの大切さを感じさせる。  
 ・学習することの必要性を繰り返し伝え、学習に向かう態度の見直しや改善、学習習慣の構築を図り、基礎基本の定着を目指す。  
 ・高学年での教科担任制を通して、専門性を生かした指導を行い、子どもの学習意欲や興味・関心を高める。

下半期  
 ・ペアやグループなどの小集団で子ども同士が対話をする場を意図的に設け、自分の思いをもち、表現することの楽しさと、聞くことの大切さを感じさせる。  
 ・学習の必要性を繰り返し伝え、学習に向かう態度の改善や学習習慣の構築を図り、基礎基本の定着を目指す。  
 ・高学年での教科担任制を通して、専門性を生かした指導を行い、子どもの学習意欲や興味・関心を高める。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①人権標語を学級ごとに作り、常時掲示し、学校全体で人権を大切に作る風土を作る。振り返りも定期的に行う。 ②人権週間には1年間の人権目標の振り返りを行い、人権について考えて生活してきたよさを実感し今後にかかすようにする。 ③みどり養護学校との交流や児童会活動を工夫して実施し、さまざまな人とのよりよい人間関係の基盤を培うようにする。
担当	人権福祉委

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心にかかわる本校の状況  
 生活意識調査から、本校の児童は自己肯定感が低いことが分かる。また、自分中心にもの事を考えたり、捉えたりする子が多く、他者を思いやる気持ちが弱いのが現状である。自分のよさに気づき、自己肯定感が高まることで相手を大切に思う気持ちも高まる。  
 自己存在感を高める支援を工夫し、認め合える学級、学校づくりを目指す。  
 人間関係を育成する支援を取り入れて、日々の授業作りにも生かしていく。  
 (2)これまでの学級の取り組み  
 ・人権目標を学級ごとに作る。  
 ・人権週間を行う。  
 ・みどり養護学校との交流

今年度の目標

かかわりを大切に、ともに思い合う。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ・日常的に自分たちで決めた人権目標や学級目標を意識して過ごす。  
 ・定期的に学級担任が、振り返りを行い、学級内で人権意識がたかまっているかを確認したり、子どもたちへの意識の定着を図ったりする。  
 ・学習ごとの振り返りには、人権教育として友達との関わりからの視点を取り入れるなどの工夫をする。  
 教科領域を含め、すべての場面で人権の視点をもつことを学校全体で意識していきたい。

下半期  
 ・日常的に自分たちで決めた人権目標や学級目標を意識して過ごす。  
 ・一人ひとりが相手の気持ちを考える第一歩として「あいさつ」に重点を置き、職員で朝会の講和を行った。人権標語をクラスごとに作っている。それをもとに互いを励まし合ったり、振り返ったりすることで、他者の思いに寄り添う心情を育ててきた。  
 ・人権週間で人権標語について振り返る。また、人権集会で人権ビンゴを行うことを通して色々なクラスの大切にしていることにもふれる。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	①学校保健委員会で「手洗い・ハンカチ・せきエチケット」をテーマに健康に対する意識を高めるようにする。 ②体育の学習や児童会活動を通して、体を動かす機会や外遊びを推進するようにする。 ③年間計画に基づいた体力づくりや食育を教科・領域と関連させ、効果的に進めるようにする。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

健やかな体に関わる本校の実態  
 (R3年度新体カテテストの結果より)  
 ほとんどの学年、項目において、市平均を下回っている項目が多い。特に握力、シャトルランにおいては、全学年が下回っている。握力は力強さ、シャトルランは持続する能力が低いことが推察される。

学年	学年	握力	50m	100m	200m	300m	400m	500m	600m	700m	800m	900m	1000m	1500m	2000m	3000m	4000m	5000m	6000m	7000m	8000m	9000m	10000m	
男子	1	1160	21.94	17.9	35.9	53.9	71.9	89.9	107.9	125.9	143.9	161.9	179.9	197.9	215.9	233.9	251.9	269.9	287.9	305.9	323.9	341.9	359.9	377.9
女子	1	1160	21.94	17.9	35.9	53.9	71.9	89.9	107.9	125.9	143.9	161.9	179.9	197.9	215.9	233.9	251.9	269.9	287.9	305.9	323.9	341.9	359.9	377.9

今年度の目標

楽しく学べる体育授業の実現(体づくり運動の充実)と健康に対する意識の継続

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期  
 ・メンター研を中心に、教職員が動いたり考えたりする研修を通して、体育授業の充実を図る。  
 ・資料等を共有し、いつでも、どこでも、誰でもある程度行えるような、学習資料の共有を進める。  
 ・児童が健康に対する意識を継続的に持てるように、児童保健委員会や学校保健委員会の充実を図る。

下半期  
 ・メンター研を中心に、教職員が動いたり考えたりする研修を通して、体育授業の充実を図る。  
 ・資料等を共有し、いつでも、どこでも、誰でもある程度行えるような、学習資料の共有を進める。  
 ・児童が健康に対する意識を継続的に持てるように、児童保健委員会や学校保健委員会の充実を図る。